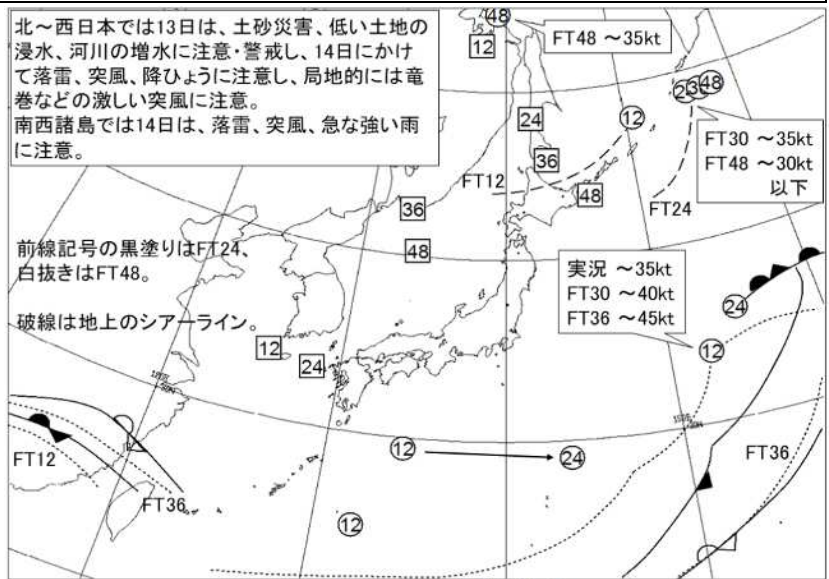


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5700m付近のトラフが九州の西を東南東進。九州の西では、トラフに対応した低気圧が発生して、激しい雨を解析し、周辺では発雷を多数検知。
- ② 500hPa 5760m付近の正渦度極大域に対応して、日本の東を前線を伴う低気圧が東北東進。低気圧からのびる前線は日本の南から沖縄の南へのびている。
- ③ 500hPa 5400m付近で-27°C以下の寒気を伴うトラフが日本海北部を南東進。



主要じょう乱解説図

- ④ 北～西日本は、日本のはるか東から張り出す高気圧に覆われて、晴れている所が多い。北～東日本の内陸部では、局所的に降水が解析されている。また、オホーツク海の低気圧との間で気圧の傾きが大きくなって、北海道地方ではやや強い風が吹いている。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の九州の西の低気圧が、九州付近を通り、13日夜にかけて小笠原諸島近海へ進み、その後、不明瞭化。
- ② 1項③の日本海北部のトラフは南東進して、トラフに対応した低気圧が13日夜にかけてオホーツク海から千島の東へ進む。この低気圧付近からシアーラインがのびて、13日朝から夜にかけて北海道地方を通過する。トラフの影響で、北～西日本の上空に寒気が広がる。シアーラインに向かう下層暖湿気や地上の昇温および上空の寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴う激しい雨の降る所がある。北～西日本では13日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷、突風、降ひょうに注意し、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 1項②の日本の東の低気圧は発達しながら13日夜にかけて日本のはるか東へ進み、低気圧からのびる前線は次第に沖縄の南から日本の南へ遠ざかる。一方、華南では13日朝までに前線が顕在化し、14日夜にかけて東シナ海へのびる。前線の暖域側の先島諸島では、850hPa 相当温位336K以上の下層暖湿気が流入する。南西諸島では大気の状態が不安定となるため、14日は落雷、突風、急な強い雨に注意。
- ④ 14日朝までに日本海で高気圧が顕在化し、14日夜にかけてゆっくり南へ移動する。また、13日夜にかけて沿海州からサハリン付近に別の高気圧が移動する。日本付近は、これらの高気圧に覆われて広く晴れるが、2項②のトラフに伴う上空の寒気の影響で、14日も引き続き大気の状態が不安定になる所がある。北～西日本では14日は、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。15日は、日本付近はこれらの高気圧に覆われて、上空の寒気を伴うトラフが日本の東に抜けるため、北から西日本にかけて広く晴れる一方、南西諸島は2項③の東シナ海へのびる前線の影響で雲が広がりやすくなる。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- 4. 防災関連事項 [量的予報等]** ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。